

神奈川会 第75回&京葉会 75回イベント報告

お茶の水界隈の散策

令和6年11月1日(金) 12時30分 曇天なるも散策日和でした

猛暑の夏がようやく過ぎ去り、長らく外出を控えていた元気なシニア21人が早めのランチあるいは遅い朝食を済ませてJR御茶ノ水駅に集いました。今回は教育・学術・信仰・商売繁盛の街として知られる東京神田の御茶ノ水界隈の散策を京葉会との共催で実施しました。



最初の訪問は駅に近接する「ニコライ堂」です。キリスト教三大宗派の中でも最古である正教会を日本に普及するための中心拠点としてロシア人のニコライ大主教が明治24年に創建した教会堂です。緑色の屋根の大ドームでひととき目立つこの教会堂の内部は大きな祭壇を中心にして見事なステンドグラスや数多くのイコン・聖人の肖像画・啓蒙のための宗教画などが四面の壁を飾っていました。ガイドの30分間にわたる丁寧な説明で、正教会のことを少しだけ知ることができました。



次は頑丈であって美しい聖橋（ひじりばし）を渡った先に建つ「湯島聖堂」です。江戸幕府五代将軍・徳川綱吉が幕府直轄の学校として創設し、その後の再編で「昌平坂学門所」と唱え、明治維新によって廃止されるまで武家の子弟を教育してきました。今は建物と庭が国指定の史跡として大切に保存されています。中国風の建物なのに全体が真っ黒に塗装された珍しいお堂でした。庭には高さ4.5mもの大きな銅製の孔子像が一人で佇んでいました。



今日の散策の締めは、「神田明神」の参拝です。西暦730年創建という由緒ある神社で、江戸城の表鬼門に当たるこの高台に遷座されてから江戸の総鎮守として保護され隆盛を極めました。今は江戸三大祭りの「お宮様」で有名ですが、商売繁盛の神様として個人・企業を問わず広く信仰されています。朱塗りの絢爛豪華な神殿は一見に値します。



約3時間の散策後散会しましたが、多くの参加者が初めての見学だったようで楽しんでいただいたようでした。

文 章	飯田
写 真	石川・富山
編 集	富山